（様式１）

県立茎崎高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

社会人として求められる基礎学力及び基本的生活習慣の定着、自己の将来を見据えた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

(1) （知識・技能）基礎学力をはじめ、社会で生きるために必要な課題解決のための手法やツールの使い方を身に付ける。

(2) （思考力・判断力・表現力）自分で課題を発見し、情報を集め、整理・分類して、まとめ、自分の考えを他者に的確に伝える力を育成する。

(3) （学びに向かう力、人間性等）自分や他者を理解し、互いのよさを生かしながら、探究に主体的・協働的に取り組む姿勢を育む。

総合的な探究の時間の学習評価

(1) （知識・技能）基礎学力をはじめ、社会で生きるために必要な課題解決のための手法やツールの使い方を理解している。

(2) （思考力・判断力・表現力）自分で課題を発見し、情報を集め、整理・分類して、まとめ、自分の考えを他者に的確に伝えようとしている。

(3) （学びに向かう力、人間性等）自分や他者を理解し、互いのよさを生かしながら、探究に主体的・協働的に取り組もうとしている。

教員による観察記録、学習活動ごとにリフレクションシートなどを用いた振り返り、発表活動の生徒相互の評価、レポートなどを用いて主体的な活動の実践等を年度末に総合的に評価する。

生徒の実態

・生徒間の学力の差が大きいが、学び直したいという意欲をもつ生徒が増加している。

・相手の立場に立って考えたり、自分の感情を適切に表現したりするのが苦手な生徒に対して、個別支援を要することがある。

・規範意識に欠ける等の生徒は徐々に減りつつあり、落ち着いた学校生活を過ごせるようになってきた。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への支援

・ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、すべての生徒にとっても「分かる授業」を展開する。
・スクールカウンセラー・キャンパスエイドの活用や、個別面談の充実を図ることで、豊かな人間関係づくりを支援する。
・通級指導の活用などにより、生徒の生活面や学習面での困難の軽減を図る。

目指す生徒の姿

・基本的な生活習慣を身に付けた生徒

・豊かな人間性を備えた生徒

・社会人としての教養と規範意識を身に付けた生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

「わたしの未来」
【１年次】
・新しい環境での周囲との関わり方を考える
・自分の興味・関心のある職業について考える
・社会の中の自己実現の方法について考える

【２年次】
・自己理解を深める
・関西地方について知る
・自己実現について考える

【３年次】
・近畿の文化について触れる
・進路実現に向けて自己の課題に取り組む
・社会人として活躍できる力について考える

学習活動、指導方法等

・学校設定科目「ライフスキルを高める心理学」と連携し、自己理解や他者理解を進める方法を学ぶ。
・情報収集のために新聞や学校図書館、インターネット等を利活用する。
・様々な思考ツールやワークシートを用いて計画に沿って指導する。
・各教科と連携して、身に付けた知識・技能を教科横断的に活用できる学びを通して、社会生活を送るための資質・能力を育成する。
・情報科と連携して課題解決の方法、ブレーンストーミングの方法、グループの意見を分析する方法を学ぶ。
・整理・分析した内容をレポートにまとめ発表する。
・個人やグループでポスターを作成し、発表会を行う。
・学校行事を効果的に配置し、互いに連携する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・各年次が主体となり年次の担当者を中心に実施する。また、教務部、進路指導部、生徒支援部、各年次担当者が連携して計画する。
・各教科の協力を得て、連携しながら年次を中心に実施する。
・進路ガイダンスや見学会を通して、行政機関や企業、上級学校等と連携する。
・特別活動部と協力し、文化祭などの行事と連携して実施する。
・大学等外部機関と連携し、課題設定や情報処理などを探究活動として実施する。